

主な成果事例

スマートコミュニティ関連(水素含む)(仮)



道内企業の高断熱・高气密住宅と、太陽電池・燃料電池等を組み合わせた積雪寒冷地型ネット・ゼロ・エネルギーハウスの開発プロジェクト。暖房と給湯に消費するエネルギー量の約50%削減を達成。新築とリフォームの両面からネット・ゼロ・エネルギーハウスの建設をしており、将来的にはスマートハウス街区の形成を目指す。

(平成25年度 環境・エネルギープロジェクト形成促進事業(新築モデル))
(平成26年度 環境・エネルギープロジェクト形成促進事業(リフォームモデル))



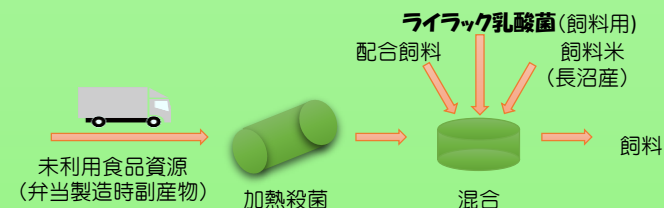
リサイクル関連



循環資源である北海道産針葉樹の間伐材チップを主原料とした、安心安全な木質繊維の断熱材である「ウッドファイバー」(北海道リサイクルブランド認定(H26.3.19付))

優れた蓄熱性によって居住空間の温度変化も緩やかとなり住宅の省エネ化にも貢献。

食品残さにライラック乳酸菌を加えた混合飼料を用いた健康豚の生産体制を確立し、市場におけるブランド豚としての成立条件や流通形態を検討することによって、独自の地域ブランドの構築。(平成25年度 食のリサイクルトプランナー育成事業)

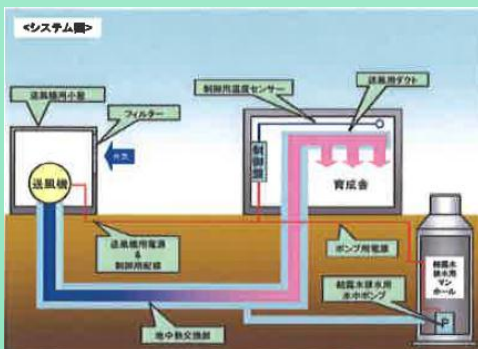


※事業化の可能性

他事業に係る高島屋横浜店への聞き取り調査では、調査を行った2013年時点で月5千万円程度の豚肉の売上げの中、リサイクル飼料で育てた豚肉の売上げが4割を占めている。

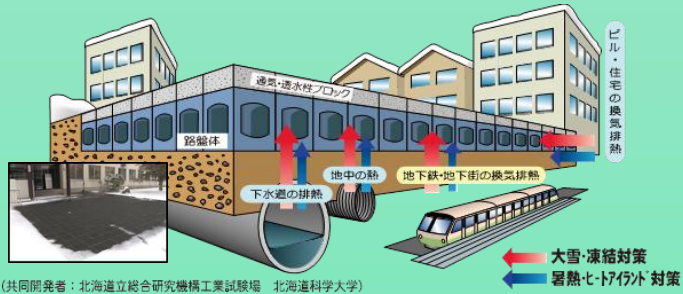


省エネルギー関連



従来、利用されずにいた換気廃熱や未利用熱を融雪施設の路盤体空洞部へ送風し、通気性ブロックから放出し雪と直接接触させ融雪する「E³ロード」を開発。使用する機器は送風機のみで、省エネ・経済性に優れている。(平成23年度 道産低炭素製品開発促進事業費)

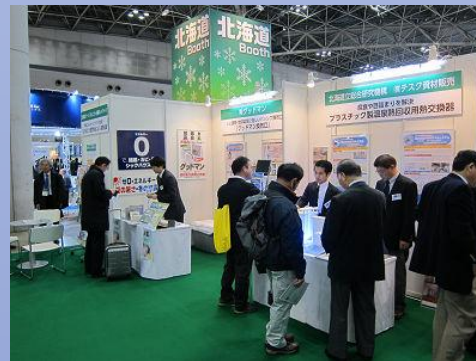
◆「E³ロード」模式図◆



道内養豚業者が抱えるエネルギー生産コストの削減を図るため、地中に埋設した熱交換パイプに、送風機によって外気を取り込み、パイプ内で熱交換を行う地中熱交換システムの豚舎への応用に関する試験及び開発を実施。(平成24年度 道産エネルギー技術開発事業)

(共同開発者：北海道立総合研究機構工業試験場 北海道科学大学)

支援する仕組み



産学官金の連携組織である「北海道グリーン・コミュニティ推進ネットワーク」を設立し、道外展示会等へ北海道ブースとして出展

平成26年度の出展情報

○CEATEC JAPAN2014
期間：2014年10月7日～11日
会場：幕張メッセ
総来場者数：150,912人
面談人数：3,386人

○ENEX2015
期間：2015年1月28日～30日
会場：東京ビッグサイト
総来場者数：47,649人
面談人数：1,527人

環境産業関連企業の従業員に対し、知識や技術の習得につながるセミナーを開催(平成26年度 環境・エネルギービジネス人材育成事業)



セミナー概要

第1回：環境・リサイクルのビジネス化に向けて(参加者：77名)
第2回：北海道における水素エネルギー社会像と課題(参加者：50名)
第3回：地域における再生可能エネルギーのビジネス化(参加者：65名)
第4回：北海道におけるスマートコミュニティと地域内循環のまちづくり(参加者：45名)